

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年11月22日 火曜日

Oracle APEXの環境作成(0) - はじめに

Oracle APEXによるアプリケーションの開発および開発したアプリケーションの実行を行う環境の作成方法をまとめます。いくつかの例外を除き、無料で利用可能なソフトウェアや環境の使用を前提とします。

環境作成に使用するソフトウェアは以下です。

1. Oracle VM VirtualBox 7
2. Oracle Linux 8
3. Oracle Database 23c Free
4. Oracle APEX 23.1
5. Oracle JDK 17
6. Oracle REST Data Services (ORDS) 23.1

すべて無料で利用できますが、ライセンスについてはソフトウェアごとに違います。Database、APEX、ORDSについては[Oracle Free Use Terms and Conditions \(FUTC\) license](#)が適用されています。

以下の12の記事を書いています。Oracle APEXやOracle REST Data Servicesは、バージョンによってインストール手順が変わっています。そのため、APEX 22.2より前、ORDSの22.3より前のバージョンには、このインストール手順は適用できません。

1. [Oracle VM VirtualBoxのインストール](#)
2. [仮想マシンの作成](#)
3. [Linuxのインストール](#)
4. [データベースのインストール](#)
5. [APEXのインストール](#)
6. [Oracle REST Data Servicesのインストール](#)
7. [仮想マシンのOCIエクスポート対応](#)
8. [OCIコンピュート・インスタンスの作成](#)（この前に手順9の実施がお勧め）
9. [REST呼び出しに使うウォレットの作成](#)
10. [自己署名証明書によるHTTPS化](#)
11. [インストールの検証](#)
12. [パッチの適用](#)

上記の他に、Let's Encryptを使ったサーバー証明書の取得も記事にしています。Oracle Linuxでは、EPELリポジトリにCertbotが含まれています。

Oracle Linux 8にEPELリポジトリを追加する Customer Managed ORDSの構成(2) - Let's Encryptを使ったSSL化

Oracle DatabaseやOracle APEXを使ってみたいけど費用が心配、という方の助けになれば幸いです。

続く

Yuji N. 時刻: 12:00

共有

<

ホーム

>

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.